

あの・なはん

No.89

あの・なはん 盛岡弁で「あのねえ」と呼び掛けることば

【問】男女共同参画推進室 ☎626-7525

LGBT

自分らしく生きられる社会へ

最近、新聞などで「LGBT」という言葉を聞く機会が増えてきました。LGBTは、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）を表す総称の一つです。当事者の中には差別や偏見などに苦しみながら生活している人もいます。誰もが自分らしく生きられる社会になるよう、LGBTについて正しく知るところから始めませんか？

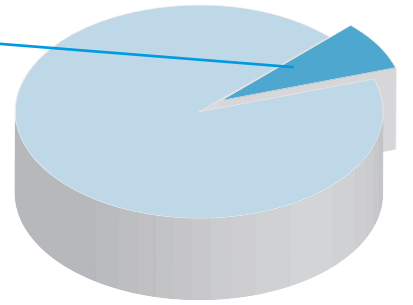


次の4つの頭文字を取った言葉です。性の在り方は、その人が生まれながらに持っている資質で、単純に「男」「女」に二分されるものではなく、「体の性」「心の性」「好きになる性」「表現する性」が組み合わさり構成されています。

- L** Lesbian (レズビアン・女性同性愛者)
女性の恋愛対象が女性
- G** Gay (ゲイ・男性同性愛者)
男性の恋愛対象が男性
- B** Bisexual (バイセクシュアル・両性愛者)
恋愛対象の人の性別を問わない
- T** Transgender (トランスジェンダー)
体の性と心の性が異なり、「心の性」や「表現する性」で生きることが望む人

性的少数者の割合

日本人の
約13人に1人が
LGBT



電通ダイバーシティ・ラボの調査によると、全国で7.6%（約13人に1人）が、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）という結果が出ています。例えば、30人の職場や学校、地域では2人の人がLGBTだと自認しているということになります。この数字は多いと思いますか？ 少ないと思いますか？

性の多様性を理解し認め合うために

■当事者が直面する差別や困難とは

学童期

- 体は男子で心は女子なのに男子の制服を着ることを強要される
- 男女別トイレしかないため体の性に合わせたトイレしか使うことができない

職場

- 自分がLGBTだと周囲に理解を得ても、周囲の環境が変わるたびに自分のことを説明しなくてはならない

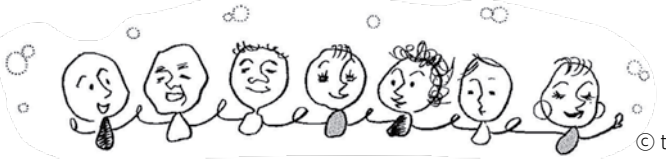
家族や友人関係

- ありのままの自分が家族や友人に認めてもらえないのではという恐れと不安

医療

- パートナーが入院し面会謝絶になっても親族として認められないため面会できない
※日本では同性婚が法律上認められないため

家族や友人から相談されたとき、あなたはどのようにしますか？



●誰もがありのままに生きる社会へ

LGBTの人たちが今の社会でありのままの自分を表現することはとても難しいのが現状です。しかし、あなたの周りにもLGBTの人は必ずいます。人の考え方が多様なように、性の在り方も多様です。LGBTについて正しく理解し、否定したり偏見を持ったりせず尊重する姿勢を周りの人に示すことが、誰もが自分らしく生きられる社会につながっていくのではないのでしょうか。

インタビュー

LGBTが理解される社会へ

LGBT支援団体「岩手レインボー・ネットワーク」主宰の山下梓さん



★LGBTを取り巻く現状・困難は？

LGBTの人たちは、生活のさまざまな場面で困難に直面しがちです。早くは学童期から、男女別の制服やトイレ、健康診断など。思春期には「異性への関心が芽生える」と習いますが、同性愛や両性愛、無性愛などの性的指向については教えられません。家族の理解や仕事、医療などでも困難があります。LGBTの人たちの8割が性の在り方を理由にいじめを経験したとの報告もあります。

同性婚を認めたり、性の在り方を理由とした差別を禁止する国々もありますが、日本は、法的にも遅れていると感じます。多様な性の在り方の人が出て、どれも自然で平等だという理解が進んでいないことが、困難を生んでいます。

★理想とする社会とは

自分がLGBTであることを公表するのは個人の選択で、しなければならないものではありません。ただ、公表したいと思った人が、しても問題ないと信じていることができる社会に変えていく必要があると思っています。

★悩みを抱えている人へ一言

近頃LGBTを取り巻く環境は少しずつですが改善され、相談窓口も増えてきています。

岩手レインボー・ネットワークでは毎月1回、LGBTに関する学習会や交流会などを開催中。お会いできればうれしいです。詳しくは下記メールアドレスまでお問い合わせください。

【メールアドレス】 iwaterainbownetwork@gmail.com

活動紹介

等身大の自分で生きる!

岩手大学LGBTs学生団体Poi

LGBTs*の当事者とその理解者の居場所づくりを目的に学生が設立。勉強会や座談会、映画鑑賞会を開いたり、みんなで食事会に行ったりしています。当事者や理解者が友達にいと、見える世界が変わり、なんだか優しく、そして強くなれます。

また、LGBTsに関するパネル展示やワークショップを開催し、情報発信にも力を入れています。

この活動を通じて、当事者に限らず、誰もが「飾りも偽りもしない、等身大の自分で生きること」ができる社会を目指します。

(代表 高島ゆきなさん談)

※複数形のsをつけて、あらゆる性的少数者に配慮した言葉

同団体のパンフレット

LGBTの相談窓口

LGBTのことで悩んでいませんか？ まずは相談してください。匿名での相談も可能。秘密は厳守します。

●県男女共同参画センター ☎601-6891

毎週金曜、16時～20時 相談無料（面接相談は要予約）

●よりそいホットライン（岩手・宮城・福島専用）

☎0120-279-226（24時間対応・通話無料）

性別や同性愛に関する相談は、音声ガイダンスに沿って4番を押してください

もりおか女性センターって
どんなところ？

市の男女共同参画を推進する拠点としてプラザおでって（中ノ橋一）に開館し、今年で18年を迎えます。男女共同参画をテーマとした講座やイベントの開催のほか、女性に関する相談なども行って、誰でも利用できます。【問】同センター ☎604-3303

○女性相談・DV相談○

女性が抱える生き方や仕事、家族、DVなどの悩みについて、解決方法を共に考え支援します。

1人で悩まず相談してみませんか。

【相談開設時間】

月曜・火曜・金曜、10時～17時

水曜・木曜、10時～20時

（毎月第2火曜と年末年始、祝日を除く）

●電話相談、面接相談は予約が必要

●相談は無料。秘密は厳守します

【相談受付】同センター ☎604-3304

●子ども青少年課 ☎613-8354でも女性の相談を受け付けています

【開設時間】月曜～金曜、9時～17時

●男性からの生き方や仕事などに関する相談は県男女共同参画センター ☎606-1762で受け付けています。詳しくは同センターへお問い合わせください

○講座○

男女共同参画の視点で、暮らしや地域に役立つ講座や女性の心と体の問題に関する講座、男性や親子対象の講座など、幅広い世代の人が参加できる講座を実施。講座のお知らせは、広報もりおかなどに掲載しています。



「働く女性のここからだ講座」の様子



料理講座の様子

○芽でるネット○

芽でるネットは、センター内にある女性の就職や起業を応援する部屋の名称。起業関連図書の貸し出しとパソコンでの情報検索ができます。起業に関する相談も随時受付中。気軽にお立ち寄りください。

○フェスティバル○

毎年秋に、男女共同参画に関する映画会や活動団体の紹介展示などを行います。

○なくそう！女性に対する暴力○

国の「女性に対する暴力をなくす運動（11月12日～25日）」に合わせ、女性に対する暴力を知り、根絶するためのパープルリボンプロジェクトなどを行います。

○男女共同参画週間もりおか展○

国の男女共同参画週間（6月23日～29日）に合わせ、男女共同参画の分野で活躍している人の講演会やパネル展示などを行います。



講演会の様子

男女共同参画の視点から見る防災

もりおか女性センターでは、性別に関わりない視点で地域のコミュニティを考えた防災や避難所運営を学ぶ「女性防災リーダー養成講座」を開催しました。避難所運営の心得の一部を紹介します。

【男女共同参画の視点での避難所運営】

- 炊き出しや片付け、介護などは、特定の人に責任が集中しないように、性別に関わらず全員で分担
- 防犯のために、防犯ブザーを携帯した上で複数で行動し、見回りを行う
- 男女どちらでも使えるトイレや更衣室の設置など、性的少数者にも配慮する

受講者アンケートより

★教室の一部を女性専用にしたりと、洗濯物を干すロープを取り付けるなど、少しの工夫で避難所の生活の質が上がると感じた



日本の「男女平等」は世界で何位？

～「ジェンダーギャップ指数」世界経済フォーラム報告書より～

1日本は144カ国中114位

2017年の世界の国における男女格差（ジェンダーギャップ）の順位が公表され、日本は世界144カ国中114位で、前年よりも順位を3つ下げました。この調査は、経済・政治・教育・健康の4分野で男女平等の度合いを指数化し、毎年国別に順位を決めるものです。上位を独占したのは北欧諸国。その違いはどこにあるのでしょうか？

2男女格差が小さい国の特徴

議席や管理職の性別比率をあらかじめ割り当てる制度を導入するなど、女性の社会活躍のための積極的な改善措置を行っています。また、男性が家庭で当たり前家事育児を担っていることなどが挙げられます。

3男女共同参画は国の「持続可能性」に関わる重要な課題

男性と女性が共に助け合い、尊重しながら一人一人の個性と能力を存分に発揮できる社会をつくることは、少子高齢化・人口減少社会の中でも、国の維持・発展に大きな影響を与える重要な課題です。「その人らしく」生き生きと活躍できる社会にするにはどうすればいいのか皆さんも考えてみませんか。